

「パウロ、アグリッパ王の前に引き出される」

2016年09月24日

使徒言行録 25 章 23 節～27 節 翌日、アグリッパとベルニケが盛装して到着し、千人隊長たちや町のおもだった人々と共に謁見室に入ると、フェストゥスの命令でパウロが引き出された。そこで、フェストゥスは言った。「アグリッパ王、ならびに列席の諸君、この男を御覧なさい。ユダヤ人がこぞってもう生かしておくべきではないと叫び、エルサレムでもこの地でもわたしに訴え出ているのは、この男のことです。しかし、彼が死罪に相当するようなことは何もしていないということが、わたしには分かりました。ところが、この者自身が皇帝陛下に上訴したので、護送することに決定しました。しかし、この者について確実なことは、何も陛下に書き送ることができません。そこで、諸君の前に、特にアグリッパ王、貴下の前に彼を引き出しました。よく取り調べてから、何か書き送りたいのです。囚人を護送するのに、その罪状を示さないのは理に合わない、わたしには思われるからです。」

ユダヤの領主アグリッパと妹のベルニケが新任の総督フェストゥスに表敬訪問をするためにカイサリアに来た。フェストゥスはアグリッパに囚われの身のパウロについて話した。興味を持ったアグリッパはパウロの話聞いてみたいと要望した。フェストゥスは、明日会えると快く応じた。アグリッパから、パウロに関する何かの罪状を得たいと思ったからである。

翌日、フェストゥスの謁見室にアグリッパとベルニケが盛装して到着した。千人隊長や町の主だった人々も集まってきた。フェストゥスはパウロを引き出してくるように命じた。ローマの総督フェストゥスとユダヤの領主アグリッパ、ユダヤに君臨する二人の最高権力者が揃い、取り巻きの重鎮たちも列席した。華麗で物々しい謁見になった。パウロを巡るユダヤ人たちの騒動は人々の注目を集める事態となっていたのである。

フェストゥスは会衆を睥睨し、「アグリッパ王、ならびに列席の諸君、この男を御覧なさい」と切り出した。そして、ユダヤ人たちがこぞって生かしておくべきではないと叫び、エルサレムでもこの地でも私に訴え出ているのは、この男だと、パウロを指さした。私の下で裁判を行ったが、彼は死罪に相当するようなことは何もしていない、ユダヤ教の律法や習慣に関する事で、ローマ法には関わりのないことが分かった。ところが、この者自身が皇帝陛下に上訴したので、護送することに決定した。パウロはローマの市民権を持っているので、皇帝に上訴する権利を有している。しかし、この者について確実なことは何も、陛下に書き送ることができない。そこで、諸君の前に、特にアグリッパ王、貴下の前に彼を引き出した。貴下がよく取り調べ、罪状を明らかにして、皇帝に書き送ることができるようになりたい。そしてフェストゥスは、「囚人を護送するのに、その罪状を示さないのは理に合わない、わたしには思われるからです」と締めくくった。

フェストゥスの言う通りで、罪状を示すことなく、皇帝に上訴するのは理屈に合わないことである。パウロは罪状がない中でも、皇帝に上訴すれば、安全にローマに護送されると思ったのであろう。前任の総督フェリクスには2年間も放置され、無為な時を過ごした。パウロは、新任のフェストゥスはパウロの無罪を認めつつも、ことによったら、ユダヤ人たちに引き渡すのではないかと恐れた。パウロの思惑通りに運んでいくが、このことがパウロの殉教につながっていった。